

# 清流

題字：芳野 充

令和6年11月30日  
第95号

発行所 加来不動産(株)  
発行者 加来 寛  
北九州市小倉南区守恒本町1-12-23

穏やかに  
静かに  
清流のように

## 無形の財産をわたす

加来不動産という会社は、もともと両親が加来開発という個人事業からスタートしました。不動産業界と云えば、ある時期から「バブル時代」「土地ころがし」などという言葉もとびかい、成金のようなイメージをもつ人もいましたが、我が家はいつもお金に困っていた記憶しかありません。そんなわたしがひよんなことから会社を継ぐことになりました。会社にも自宅にも借金はありませんでしたが、貯金もありませんでしたので、継いだ当時は両親に対して「何も残してくれていない」とうらめしく思ったものです。

しかし時がたち、いまふり返ってみると未だに両親から目には見えない無形の財産に助けられていることに気づかされます。

不動産という職業、創業の歴史、お客さまとの信頼関係などの対外的なもの。そして「クツをそろえる」「笑顔をお客さまと笑顔が返ってくる」「お礼とお詫びはすぐにおこなう」「神様はその人に背負える荷物しか背負わせない」「我が子は宝物であること」などしつけや精神的なこと。いま実感することは、これらの目に見えないものは、目に見える財産では計り知れない価値があり、感謝しかありません。

ふと、我が子には無形の財産といえるものをわたせているだろうか、そんな思いが頭をよぎりました。というのも長男が高校三年生となり、来春には家を出ていくことを考えると、直接無形の財産をわたせるタイムリグは少ないことを実感したからです。そこでわたしは、「クツをそろえる」という習慣を無形の財産の一つとしてわたしたいと考えました。

その理由は大きく二つあります。一つ目は、クツをそろえることで心が整うことです。クツをきちんとそろえようとすると、かがんでクツを手でもち、ならべるといふ行動になります。しかしそこには数秒しかかかりません。その数秒といふ短い時間、クツにしっかりと意識を付けてそろえる行為をつづけることで心が整ってくることは、わたしの実体験として理解しています。

二つ目は、玄関に整然とならべられたクツを目にすると、自分だけではなく、見た人の心を清々させることができます。それは自分の心を整えるだけではなく、相手に対する思いやりの行為にちがいないと思うからです。実践しはじめてまだ数ヶ月ですが、なかなかわたしの合格ラインには届かない日々がつづいております。しかし、長男が門出するころには、「クツをそろえる」といふ習慣をとおして、自身の心を整え、また見る人の心を清々しくできるといふ無形の財産をわたしたいと思えます。

加来 寛

